

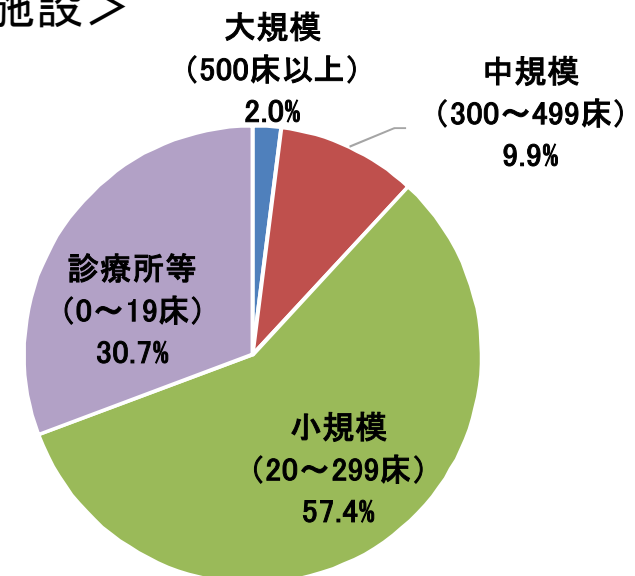
血液製剤使用実態の動向と適正使用の推進に係る アンケート調査の結果について

調査概要

- 調査時期: 2019年9月下旬～10月25日
- 調査対象期間: 2018年1月1日～12月31日
- 調査対象施設: 2018年1月1日～12月31日に輸血用血液製剤の供給があった県内医療機関145施設
- 回答状況: アンケート回収率は69.7%(101施設/145施設)で、群馬県赤十字血液センターが供給した赤血球製剤の89.5%、血漿製剤の95.0%、血小板製剤の97.4%、全製剤の94.4%に相当する。

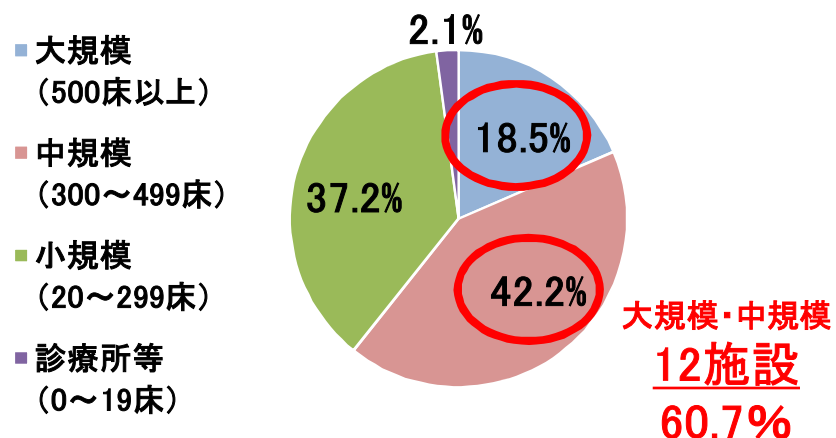
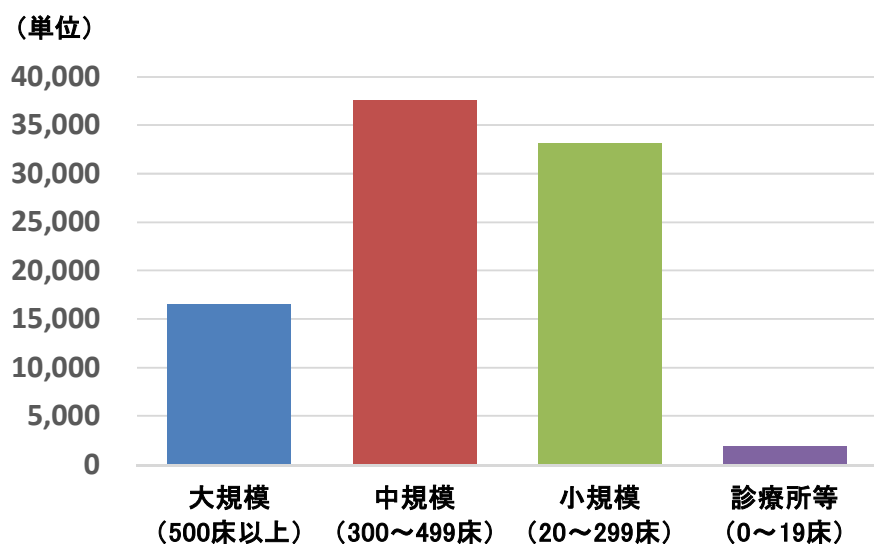
	対象施設数	回答施設数	回収率
大規模 (500床以上)	2	2	100.0%
中規模 (300～499床)	12	10	83.3%
小規模 (20～299床)	78	58	74.4%
診療所等 (0～19床)	53	31	58.5%
合計	145	101	69.7%

＜回答施設＞

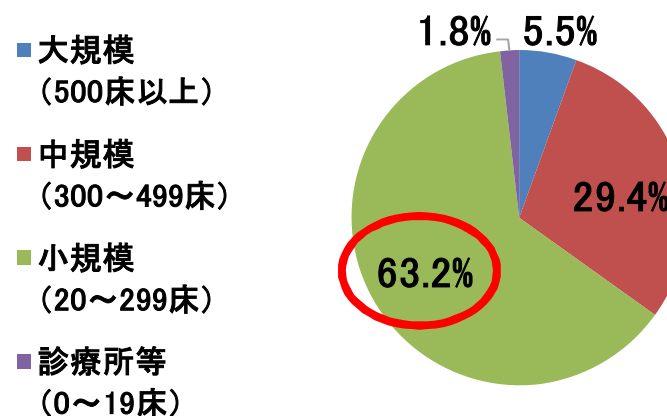
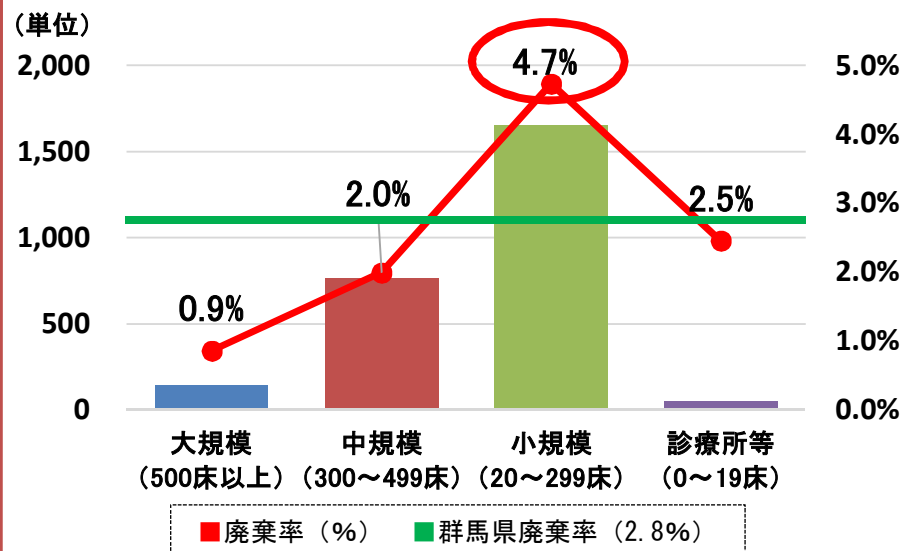


赤血球製剤 使用量・廃棄量

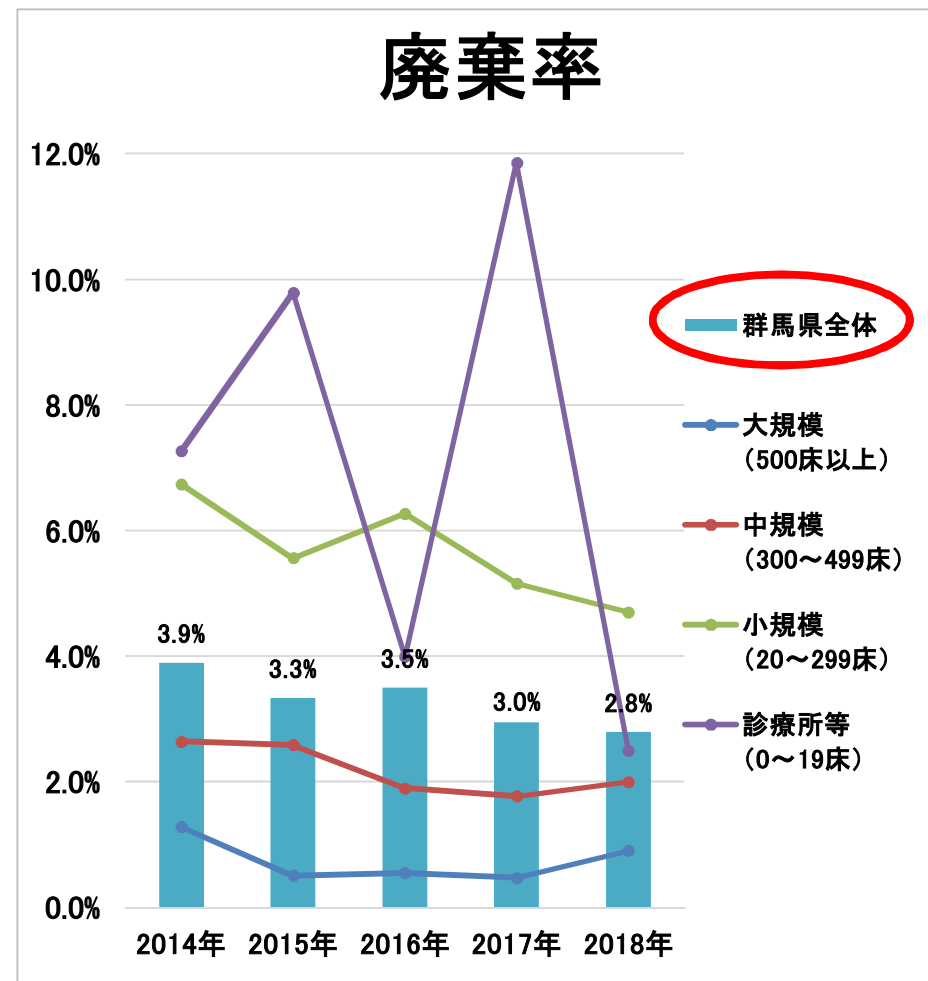
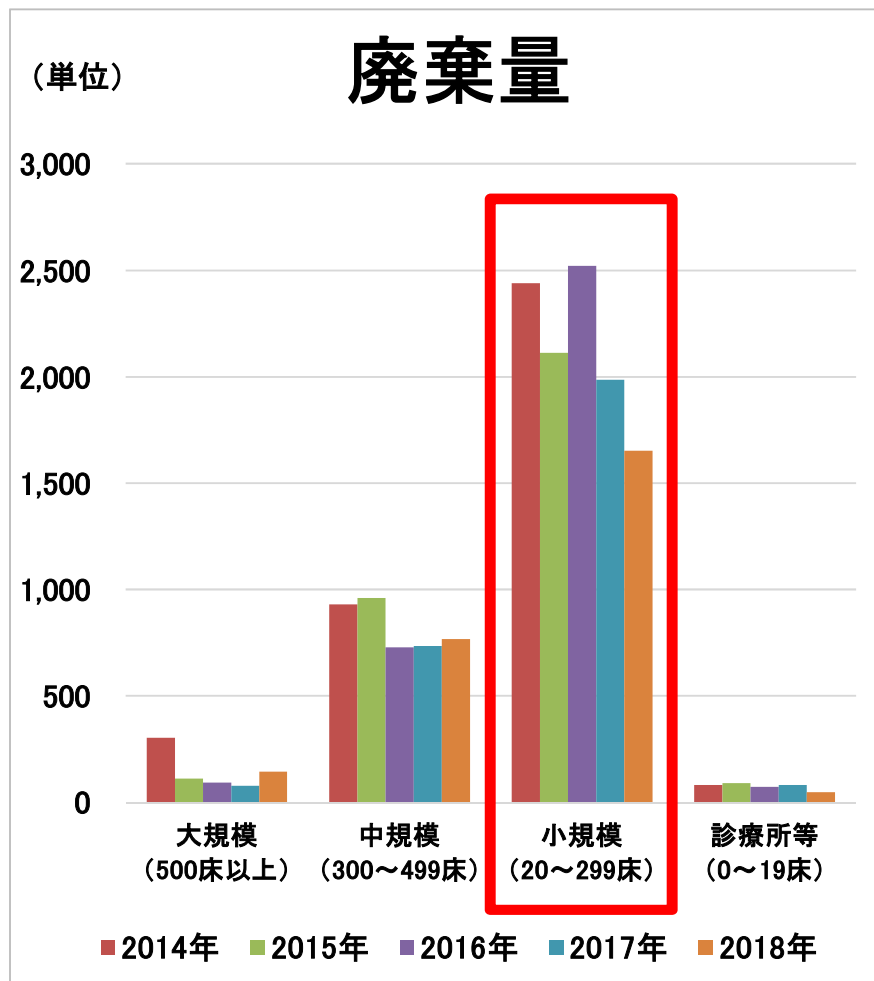
年間使用量：89,334単位



年間廃棄量：2,612単位
廃棄率：2.8%

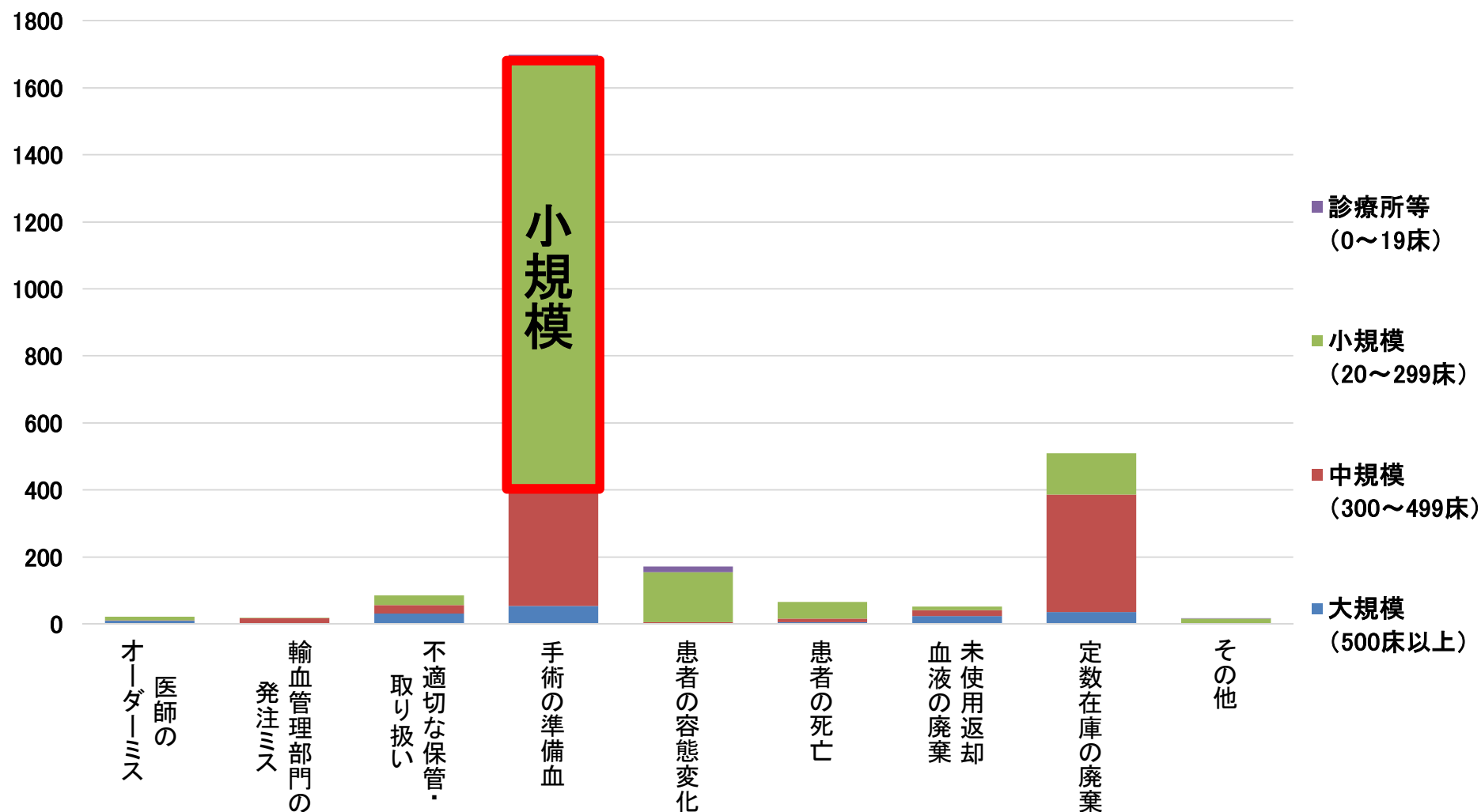


過去5年間の廃棄量・廃棄率



赤血球製剤 理由別廃棄量

(単位)



<その他>

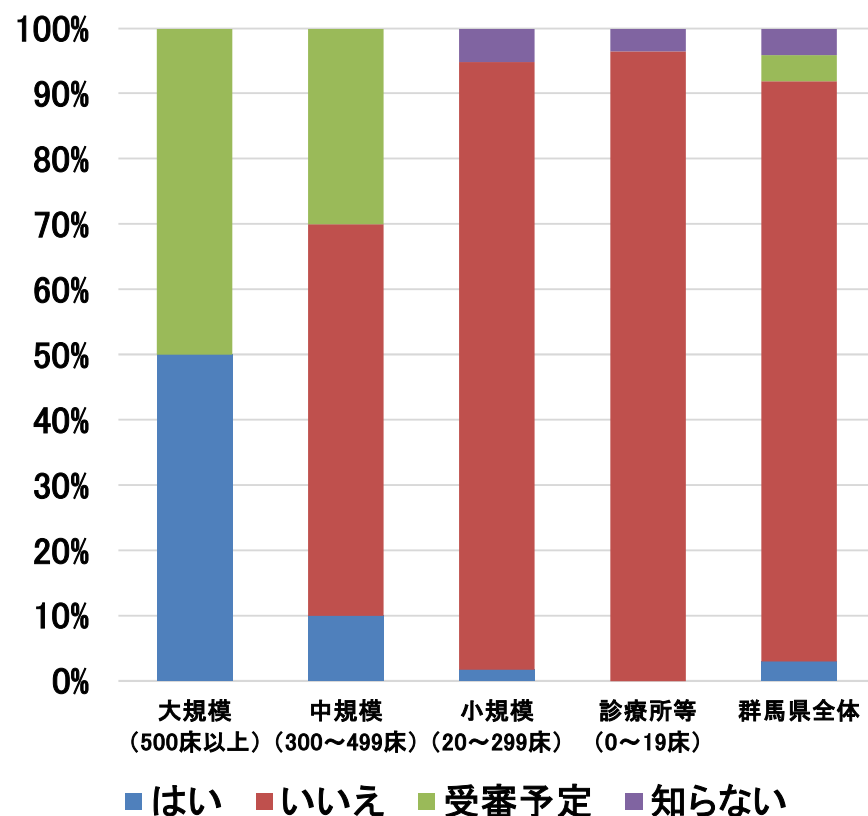
- クロスマッチ不適合となり、転用もできず廃棄
- 製剤バッグの破損

- 患者の血液と不適合のため不使用だった

【輸血管理体制】

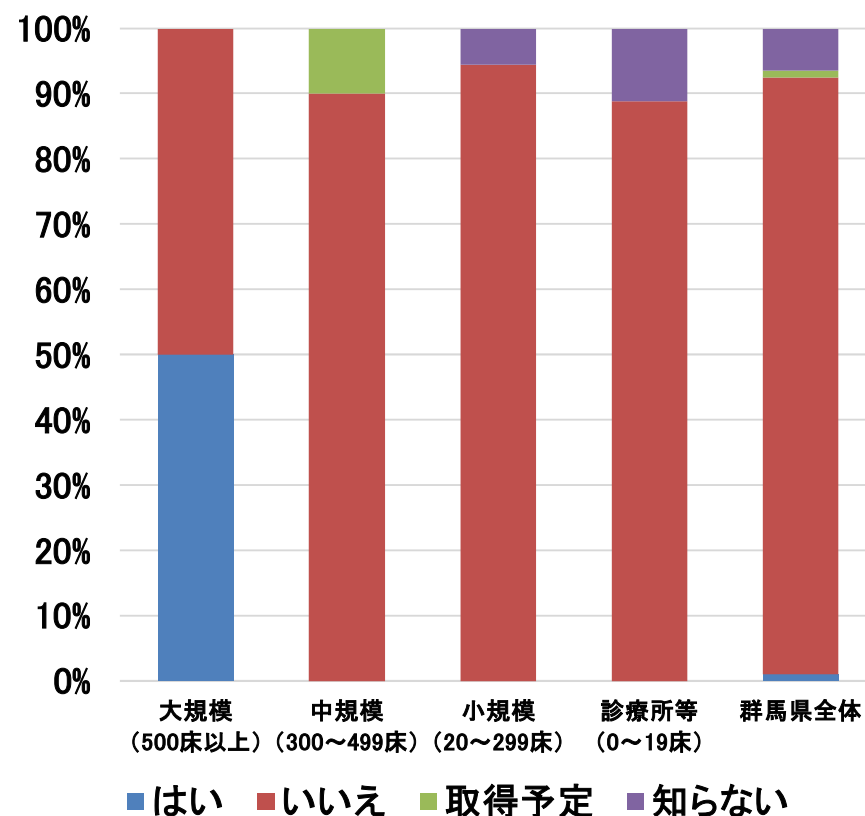
I&Aの認定

- はい: 3施設
- 受審予定: 5施設



ISO15189の取得

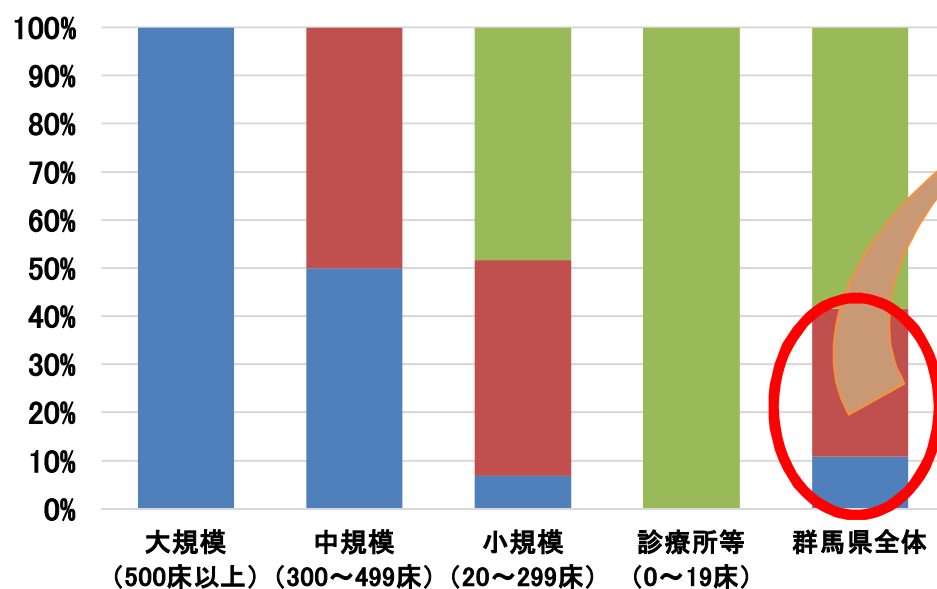
- はい: 1施設
- 取得予定: 1施設



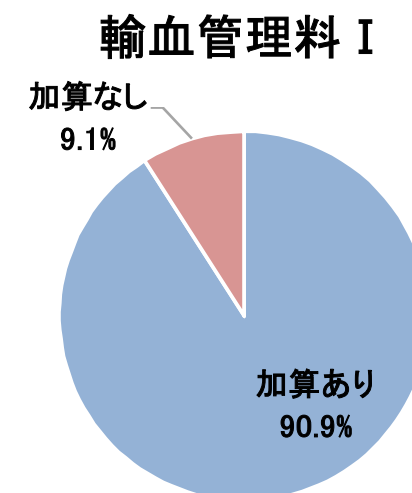
【輸血管理体制】

輸血管理料について

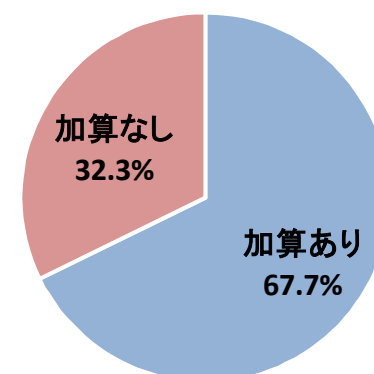
	回答 施設数	輸血 管理料Ⅰ	輸血 管理料Ⅱ	なし
大規模 (500床以上)	2	2	0	0
中規模 (300～499床)	10	5	5	0
小規模 (20～299床)	58	4	26	28
診療所等 (0～19床)	31	0	0	31
合計	101	11	31	59



輸血適正使用
加算

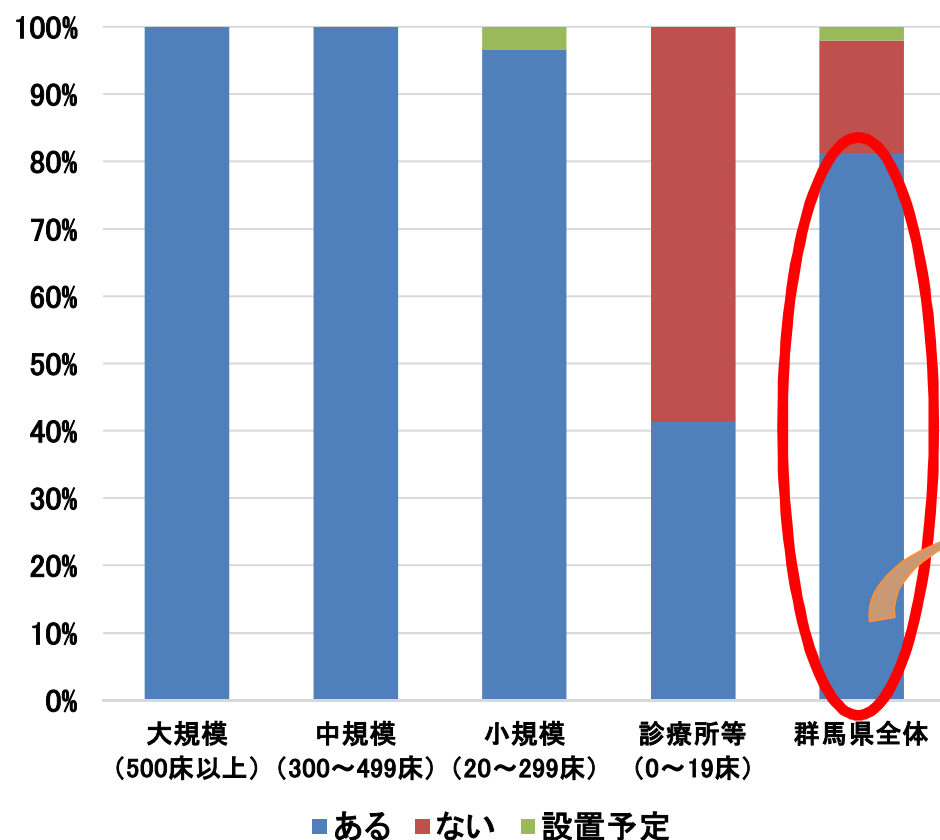


輸血管理料Ⅱ



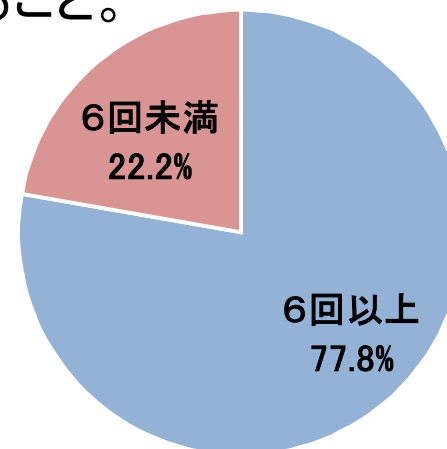
【輸血管理体制】

輸血療法委員会について



＜輸血管理料 施設基準＞

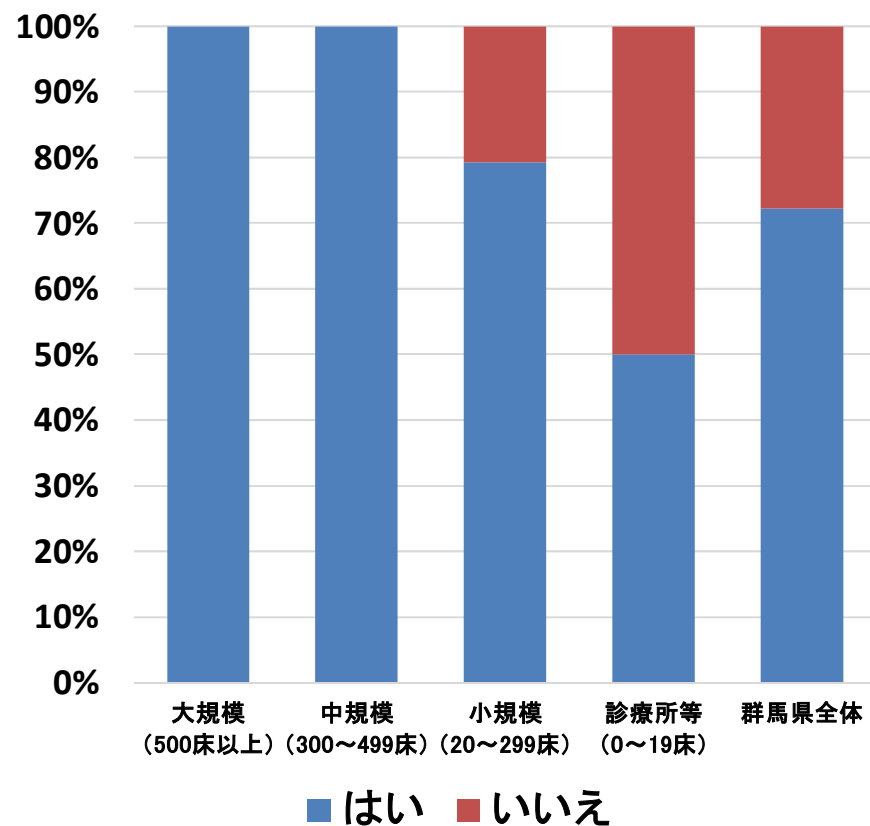
輸血療法委員会が設置され、年6回以上開催されるとともに、血液製剤の使用実態の報告がなされる等、輸血実施に当たっての適正化の取組がなされていること。



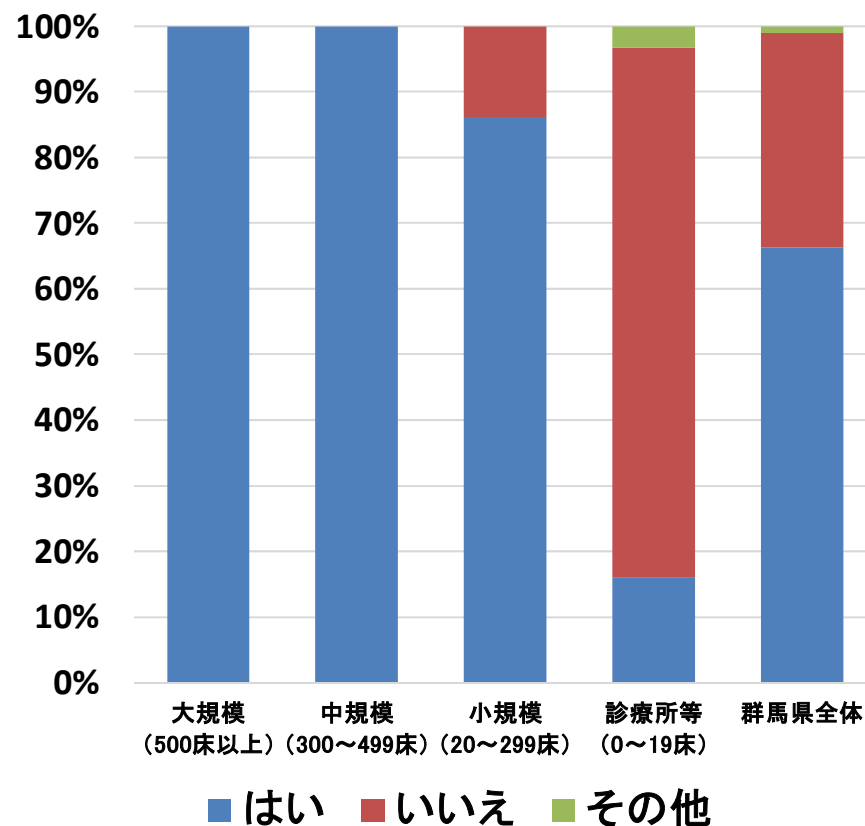
➤ 院内監査(病棟ラウンド)を実施していた施設は、8施設(7.9%)

【輸血管理体制】

輸血責任医師の任命



輸血担当技師の配置

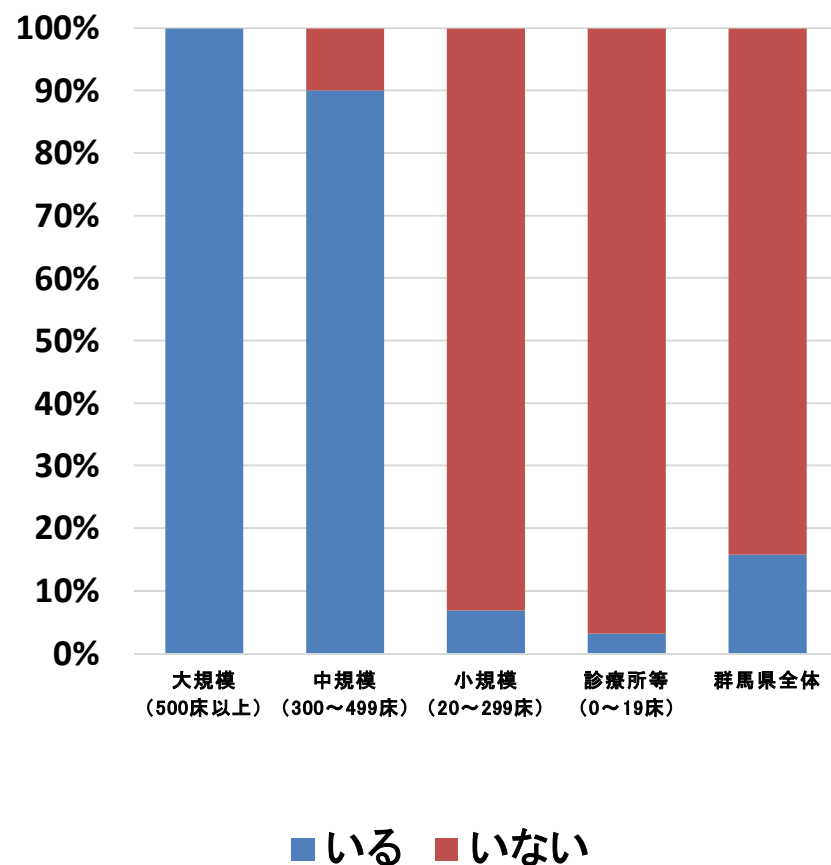


【輸血管理体制】

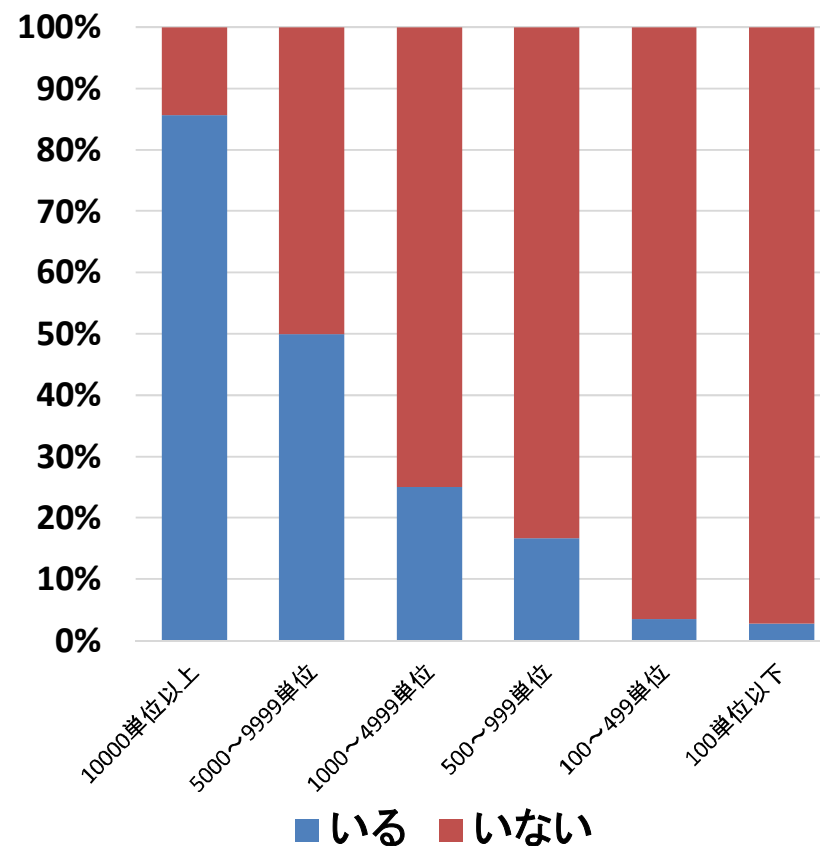
学会認定・臨床輸血看護師について

学会認定・臨床輸血看護師がいる施設

施設規模



輸血量 (赤血球 + 血漿 + 血小板)

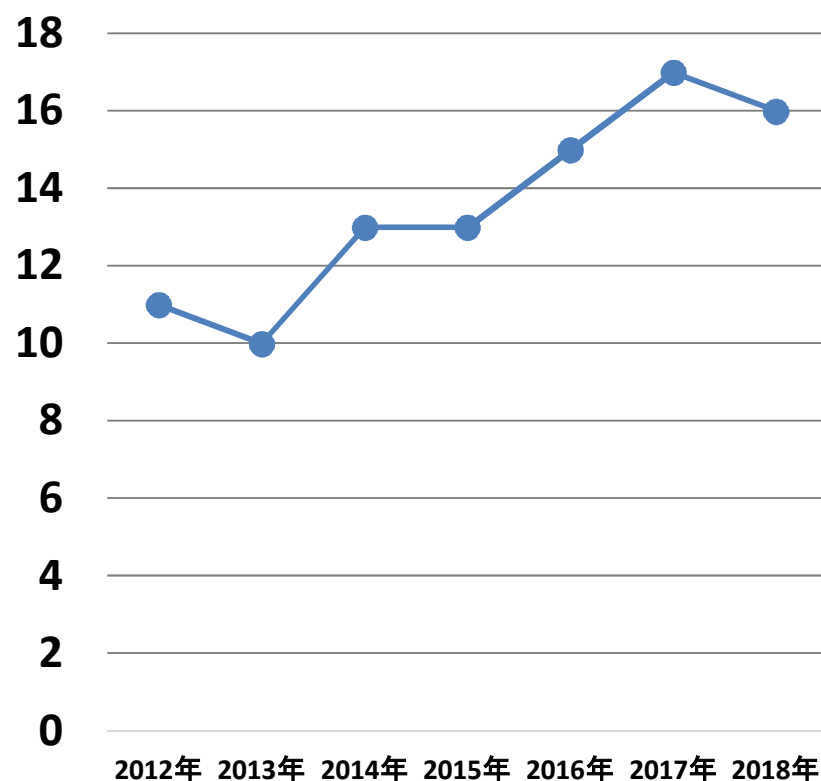


【輸血管理体制】

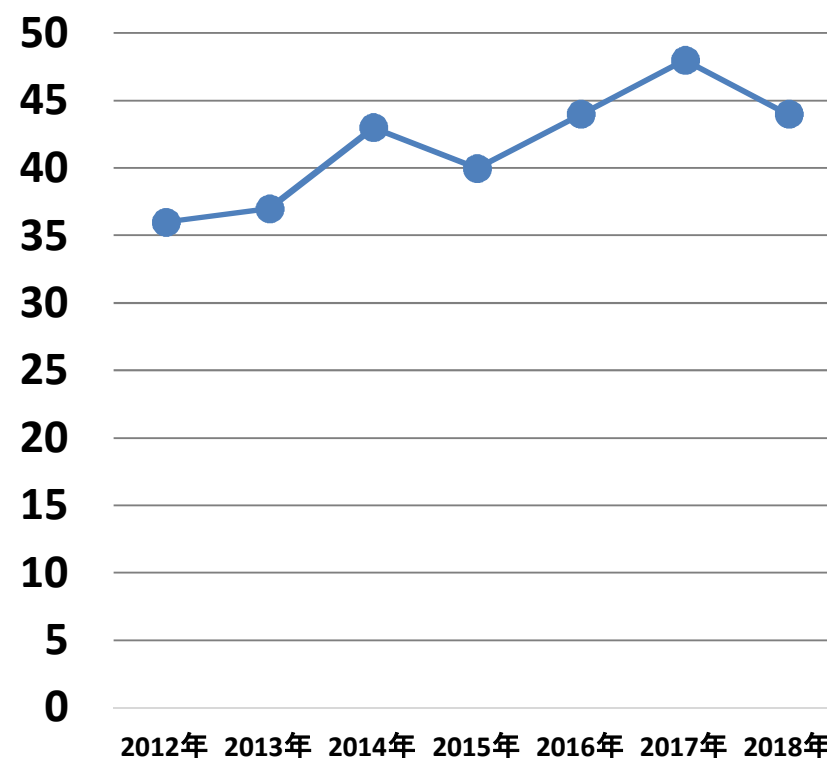
学会認定・臨床輸血看護師

学会認定・臨床輸血看護師がいる施設及び人数の推移

施設数



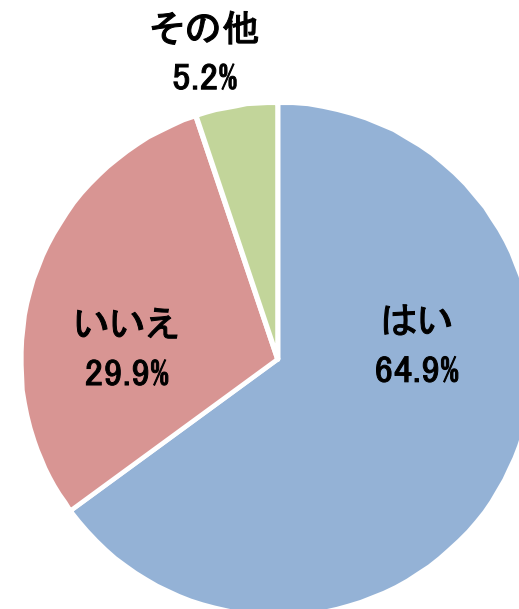
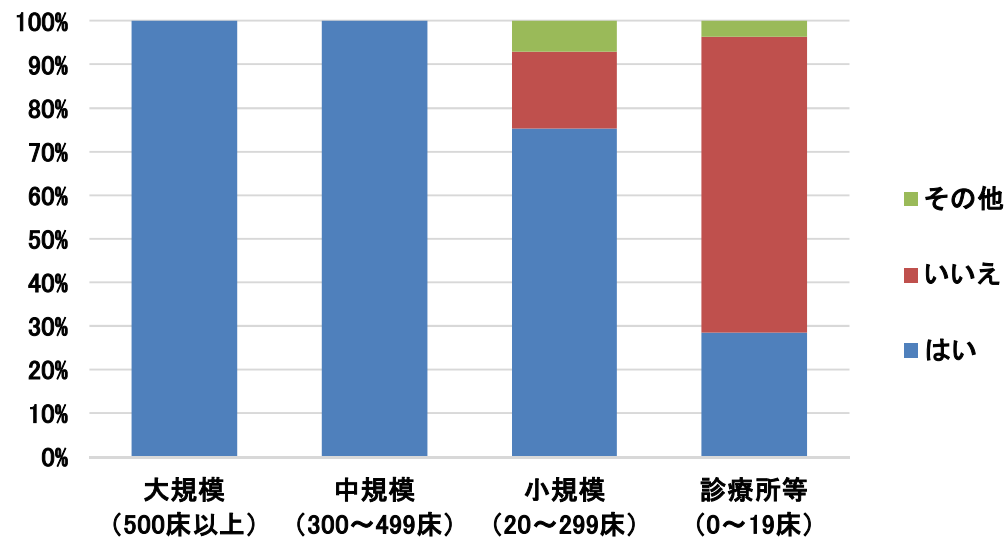
人数



【血液製剤の管理】

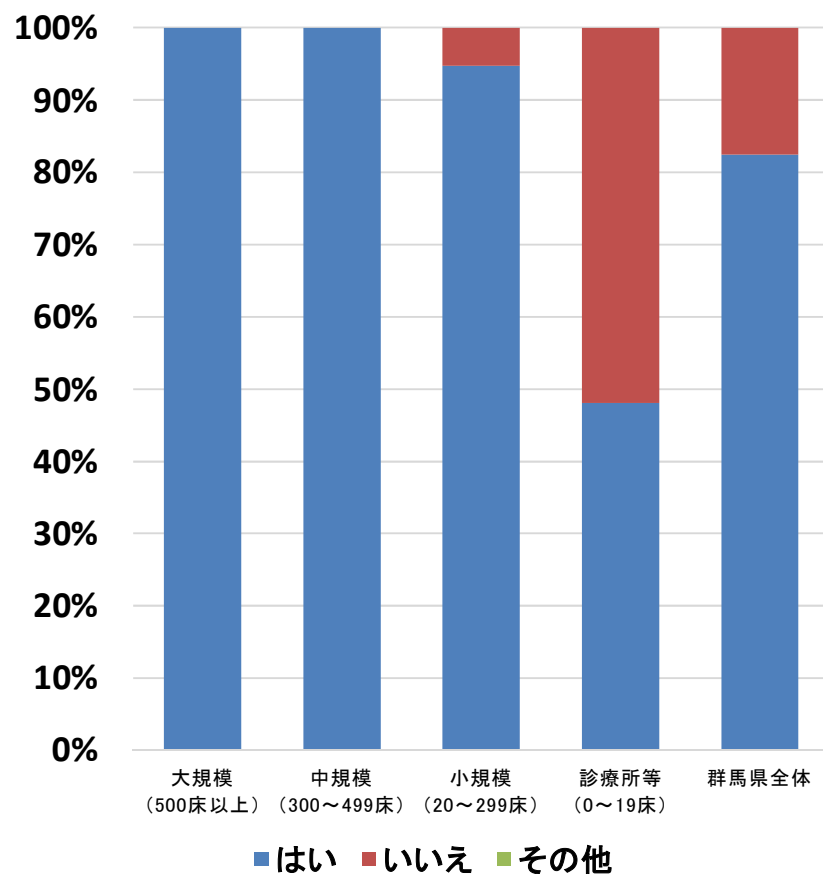
輸血部門での24時間一元管理

	回答 施設数	はい	いいえ	その他
大規模 (500床以上)	2	2	0	0
中規模 (300～499床)	10	10	0	0
小規模 (20～299床)	57	43	10	4
診療所等 (0～19床)	28	8	19	1
合計	97	63	29	5

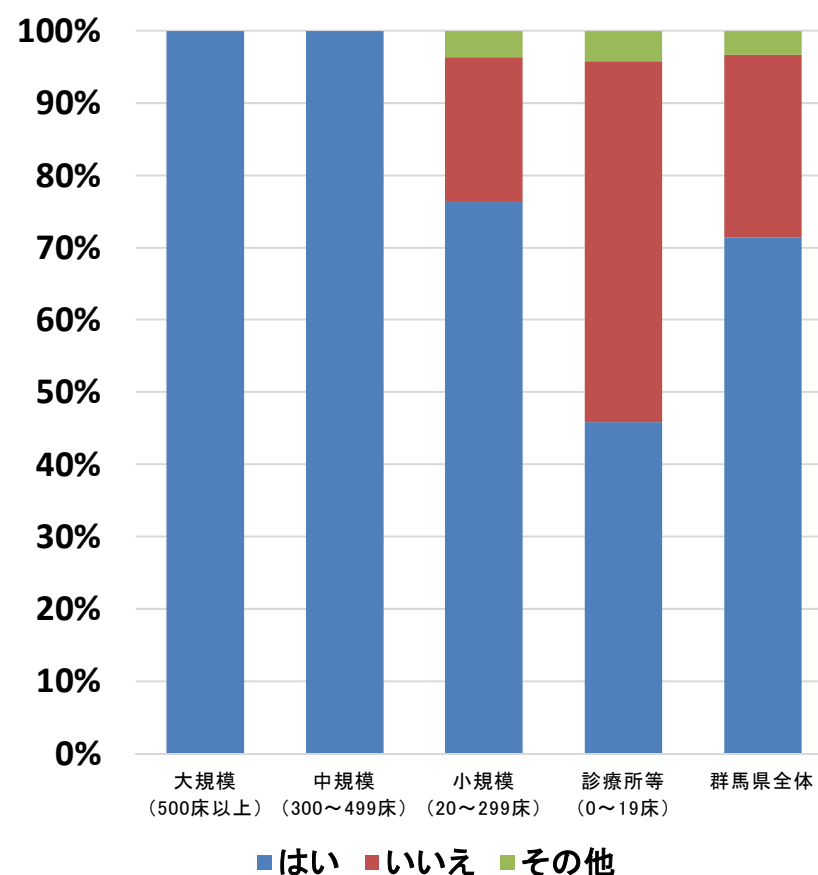


【血液製剤の管理】

血液専用保冷庫の 自記温度計・警報



血液専用保冷庫の 日常点検とその記録



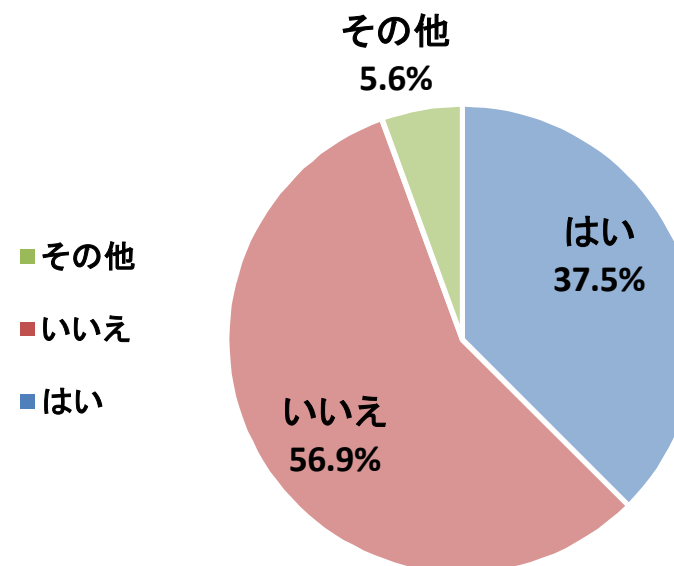
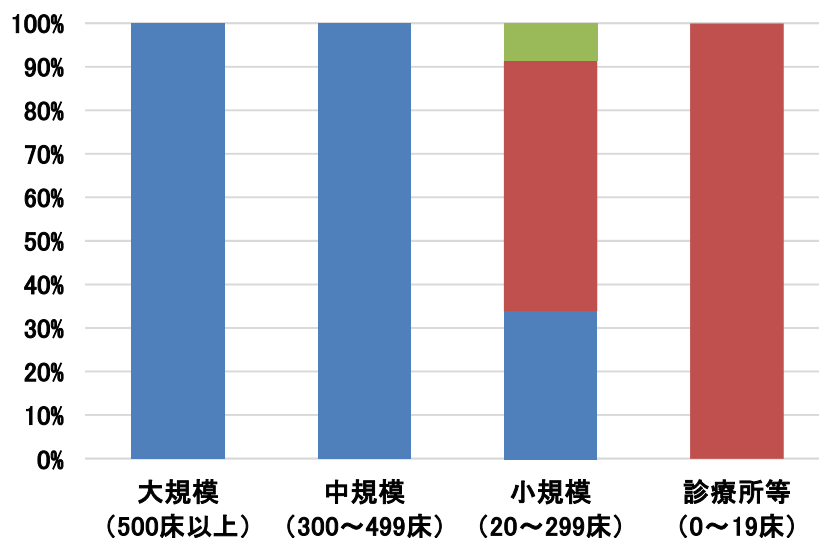
【血液製剤の管理】

輸血部門に血小板振とう器はあるか

	回答 施設数	はい	いいえ	その他
大規模 (500床以上)	2	2	0	0
中規模 (300～499床)	9	9	0	0
小規模 (20～299床)	47	16	27	4
診療所等 (0～19床)	14	0	14	0
合計	72	27	41	4

<その他>

- 専用の機械ではないローテーターを使用
- 病棟にある
- 専用振とう器はないがウェーブロータを使用し振とうを行っている
- 検査用の振とう器で代用



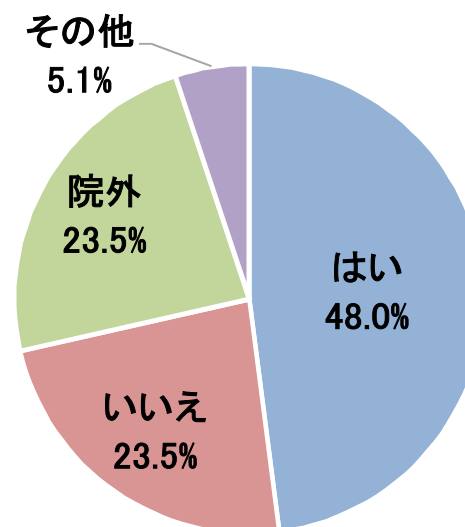
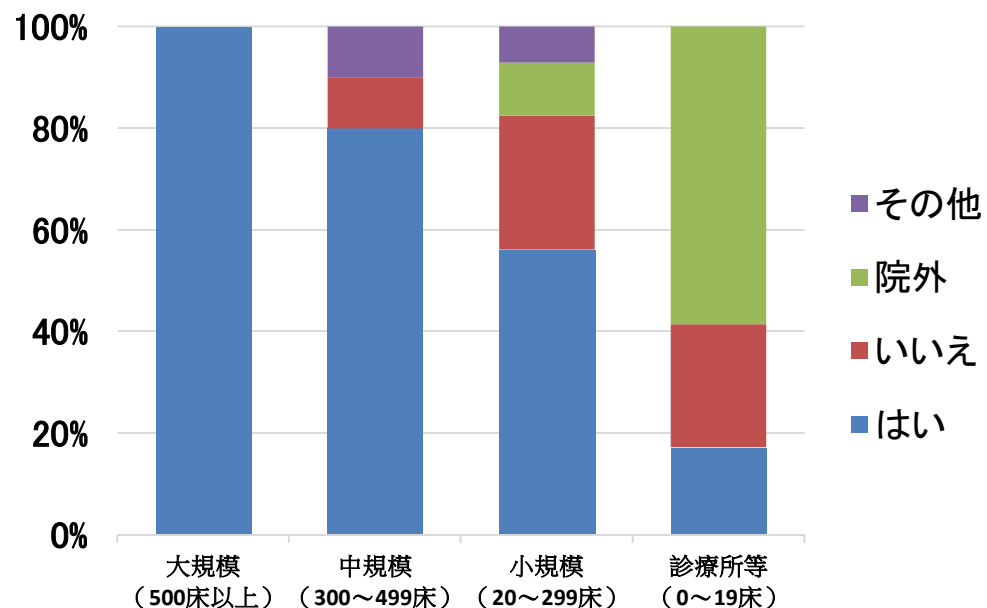
【輸血検査】

ABO・Rh血液型検査の異なる2検体での実施

	回答 施設数	はい	いいえ	院外	その他
大規模 (500床以上)	2	2	0	0	0
中規模 (300～499床)	10	8	1	0	1
小規模 (20～299床)	57	32	15	6	4
診療所等 (0～19床)	29	5	7	17	0
合計	98	47	23	23	5

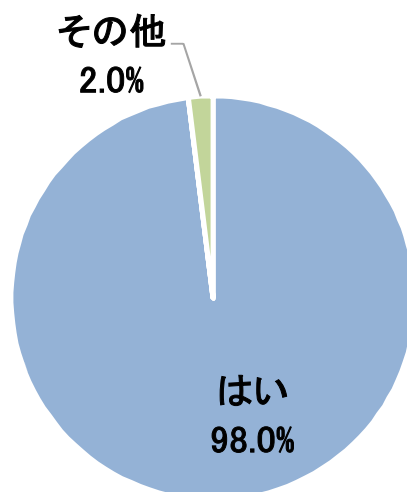
<その他>

- 全例ではないが可能な限り施行している。
- 血型とクロスは別時点の採血なので、それぞれ検査し、それを2回実施としている。
- 2回実施し実施回数をカウントしているが、1回目の時点で報告している
- 同じ血液を二人で別の手技で行っている。
- 今後実施する予定でマニュアルを作成中

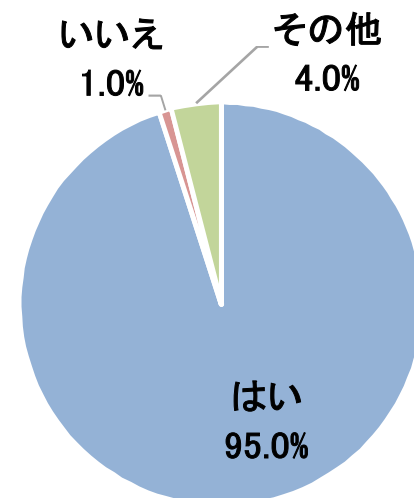


【輸血の実施】

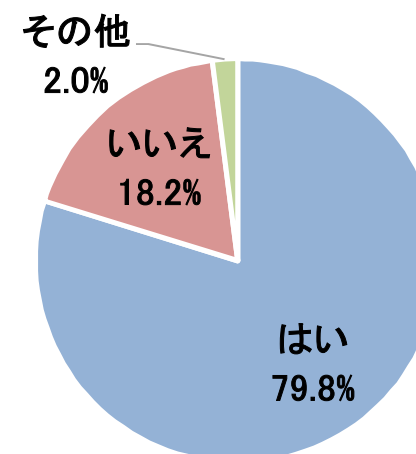
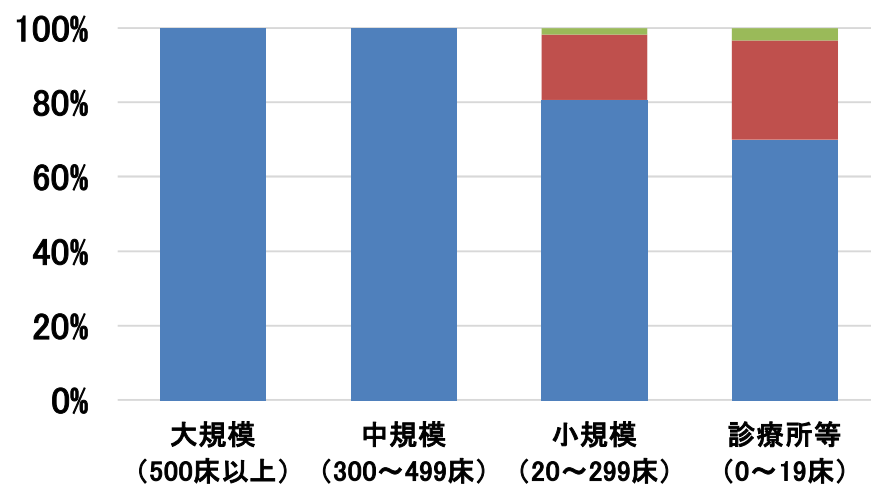
ナースステーションでの
2名による照合確認とその記録



1回1患者の輸血準備



ベッドサイドでの照合確認とその記録

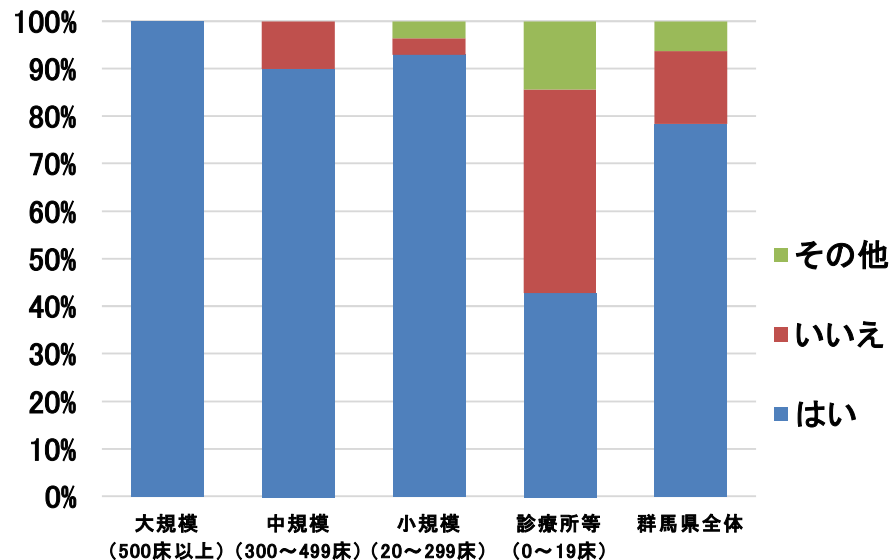


【副作用への対応】

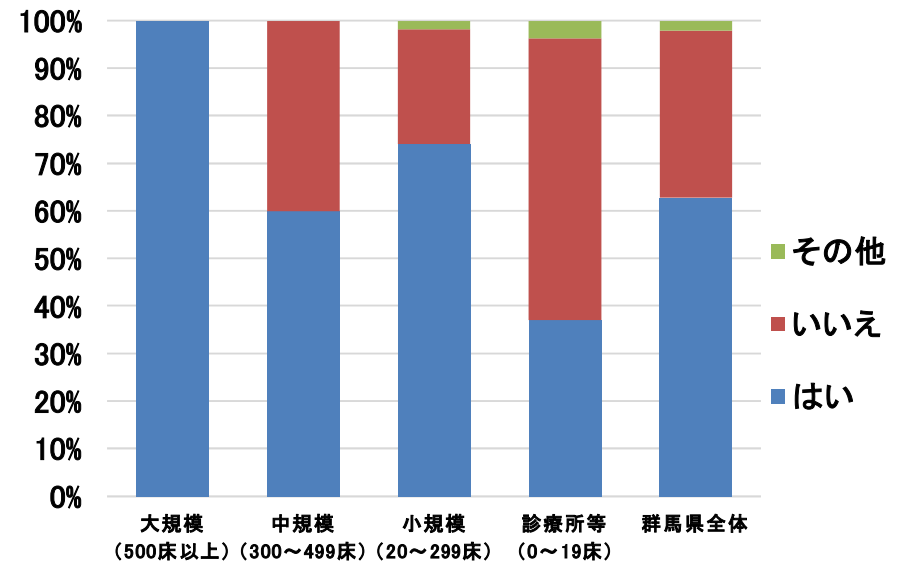
＜実施率＞

- ① 輸血前の観察とバイタルの記録：99.0%
- ② 開始5分間の副作用有無の記録：99.0%
バイタルの記録：99.0%
- ③ 開始15分後の副作用有無の記録：97.9%
バイタルの記録：98.0%

副作用の報告体制の文書化と 副作用発生状況の記録



副作用の診断・治療の文書化



まとめ

＜赤血球製剤 使用量・廃棄量＞

- ◆群馬県の赤血球製剤の廃棄率は年々低下してきており、2018年の廃棄率は2.8%であった。
- ◆赤血球製剤の廃棄の主な原因は「手術の準備血」で、小規模施設では手術準備血の転用が難しい状況であることが分かった。

＜輸血管理体制＞

- ◆I&A認定施設は3施設で、中規模と大規模の5施設で受審予定との回答であった。

まとめ

＜輸血検査＞

- ◆「輸血療法の実施に関する指針」では、血液型検査について「同一患者の二重チェック」が求められているが、異なる2検体で実施している施設は48.0%であった。

＜輸血の実施＞

- ◆輸血実施時の確認として「ベッドサイドでの照合確認とその記録」については、18.2%の施設で「いいえ」との回答であった。

アンケートにご協力いただき、
ありがとうございました。

今後とも
「安全で適正な輸血医療のために」
ご協力をお願いいたします。